

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

哲学カフェに集う人は、自分に変化を起こすために足を運んでいると言える。ある対話の場に浸透されて、自分がそれに染まり、そこで人の発言が自分の体の底に響くことを望む。哲学対話は、いわば^{つぎ}変化の試みである。だから、①哲学対話のオーガナイザー^(注1)は対話の場所を慎重に選択する。寺では、落ち着いて人生をテーマとした対話に向いているだろう。作品を鑑賞した後で、美術館のオープンスペースで行う対話は、やはり作品群の醸し出すムードに包まれる。キャンプファイアの火以外は漆黒の闇に沈んだ森林での対話は、深い黙考に誘われる。コーヒーやワインの香りが漂う心地よいカフェでの対話は、^{おの}自ずと和やかな、回想的な内容になる。場所の違いが私たちの対話を変化させ、それにより私たち自身が変わる。哲学対話は、自分を変容させるコミュニティを作り出す場なのである。自分でその場の構築に参画しながら、その場によって自己を変容させる、そうした試みである。

ウェブでは、何よりもそうした場所の設定ができない。それぞれの参加者は、それぞれ別の場所にいる。場所是对話の暗黙のテーマである。参加者全員を包み込んでくる場が共有されていない。すると、一緒に笑う、一緒に^{うな}唸る、だんだん疲れたムードが伝搬するなどといった身体的で感情的なつながりも弱くなってしまう。

また、オンラインでも、マスクを掛けた場合でも、対話に参加する人の身体性に制限をかける。オンラインでは、顔以外の身体部分が隠れ、あるいはカメラの角度で顔も見えにくくなり、マスクでは口元が隠れる。身体が隠れても、口元が隠れても、相手の発言を理解するための情報や文脈が縮減する。これによって失われるのは何であろうか。私には、それは一種のリズムであるように思われる。共振性と言い換えてもいいかもしれない。

発話とは、音声として見れば、さまざまなリズムをもった声の連なりである。発話に意味を与えているのは、その発話の究極的な背景であり文脈である、その人物そのものである。しかもその人物とは、その身体とそれまでの人間を含めた周囲の環境との相互作用の層のようなものである。人間は、それまでの人生における行動の連なり、その長い長い流れの中で発話し、話を傾聴する。言葉の意味づけはその流れの中で行われる。そこでは、音楽のように、さまざまなリズムと旋律が複雑にぶつかりながら、協調しながら流れていく。そのそれぞれの人生の流れが集まり、共同して何かを生み出そうというのが、対話なのである。対話にうまく入れないという人は、その複数の流れの集合が生み出していくリズムにうまく乗れないでいるのだろう。目の前の流れの中に身を投じて、その動きに最初は身を任せ、おもむろに手足を動かして流れに身を預けながらも泳いでいく。これはなかなか難しい作業である。

私たちは、人の話を傾聴するというときには、その身振りと言話に身を浸す。その他者の身体の侵入はときに力強く、しばらくその身体に支配されたかのような時間がすぎる。しかし他者の身振りと言話のリズムが、微妙な違和感を私のなかに生み出し、それを自分とは別のリズムとして切り離そうとするときに、言葉が発出する。緊張して身体がこわばらな

いように、流れは緩やかな方がいい。一度タイミングを外すと、もうただただ流されてしまうような激流ではなく、各人がうまく自分の呼吸と手足の流れを協調できるような流れに保っておくことが、ファシリテータ^(注2)の仕事である。対話を徹底して身体的なパフォーマンスとして捉えるなら、オンラインでは、この身体の間と他人の身体との共振性が弱まってしまう。オンラインでの対話とは、もしかすると、手紙でのやりとりと身体的なパフォーマンスの間なのかもしれない。しかし、先に述べたように、身体性が縮減されるがゆえに、オンラインを好む人もいるのである。

このように②オンラインでの対話は、重要な点で対面での対話と異なる。マスクを掛けた対話のあり方は、やはり掛けない状態とは微妙に異なっている。対話が音楽のようなパフォーマンスであれば、そのやり取りの小さな違いが、一瞬の反応の遅れや相手の反応の見逃しにつながり、その後の対話の展開に大きな影響を及ぼしても不思議ではない。オンラインでの哲学対話は、対面の劣った類似品ではなく、それは異なったメディアを用いた、微妙に異なったコミュニケーションなのである。

(注1) 主催者。

(注2) 中立的な立場から議論を促進し、参加者の相互理解や合意形成を支援する進行役。

(河野哲也「対話によるコミュニケーション」(山口真美他 [編著]『コロナ時代の身体コミュニケーション』所収) 勁草書房、2022年。なお、原文の一部を変更している。)

【設問1】

下線部①「哲学対話のオーガナイザーは対話の場所を慎重に選択する」とあるが、哲学対話において場所の選択が重要になる理由を150字以内で説明せよ。

【設問2】

下線部②「オンラインでの対話は、重要な点で対面での対話と異なる」とあるが、筆者が考える対話とはどのようなものであるか。また、筆者は、対面での対話とオンラインによる対話がどのように異なると考えているか、250字以内で説明せよ。

【設問3】

筆者の考えを踏まえながら、APU入学後、あなたが目指したい対話のあり方やファシリテータの役割について、800字以内で述べなさい。その際、あなたのこれまでの経験やAPU入学後に体験することになりそうな対話の場を具体的に想像しながら書きなさい。